

モグラ便り



2021 年新年号

目次

◆ 巻頭言 山本政義	1	◆ 改正種苗法が成立 新品種の海外持ち出し規制へ	29
◆ 新年のあいさつ・抱負	4	◆ 経営企画室便り	31
◆ 有参協活動紹介	16	◆ モグラNEWS	32
◆ 最先端ドイツ有機食品市場の拡大背景	18		



新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。
また、旧年中はひとかたならぬご厚情を頂き誠にありがとうございました。謹んで御礼申し上げます。

コロナ禍に向き合う決意

取締役副会長 山本政義

昨年を振り返った時、何といつても世界中で一番に挙げられる話題は新型コロナウイルスでしょう。発生の起源は特定されていませんが、中国の武漢から瞬く間に世界中に拡散し6500万人が罹患、150万人の方々がお亡くなりになりました。日本でも約20万人が罹患、約3千人の方々がお亡くなりになっています（数字はいずれも12月下旬現在）。

この拡散のスピードは驚異的で、やはり交通手段の発達、グローバル化と無縁ではないと言えます。100年ほど前（1918年）世界中で猛威を振るったスペイン風邪。当時、船舶でアメリカから（発

生はアメリカ・カンザス州と言われる運ばれヨーロッパへ人・物の移動に伴い世界へと拡散していったという点は同じですが、現代では当時の何十倍もの速さで移動が可能になったと言えます。わずか半日で地球の裏側まで行くことができるようになったということが人類にとって便利になった分、ウイルスにとっても比較にならない便利さ？を得たことになりました。

マルタでも、昨年1月の冬季全国生産者大会もコロナ感染の危惧を抱えながらの開催ではありましたが、まさかここまでといった感じです。

4月に出された国の緊急事態宣言以降マルタ内部の変化として職員には一部テレワークや時差出勤で対応していただきました。そのことにより産地の皆様ある

いはお取引先様にはご迷惑をおかけした面もあるかとは思いますが、緊急時対応であったことに免じましてお許しいただければと思います。

また、私も初めての経験でしたが、年6回開かれるマルタの取締役会も3月以降は全てZOOMによるビデオ会議になりました。個人的な見解を述べさせていただければ、リアル会議の場合、私の住む青森の自宅から東京の事務所まで4時間ほど、事務所まで5〜6時間会議を行い、帰路青森まで4時間という日程です。今回のWEB会議導入により、移動時間の節約、新幹線や航空機等の交通費の節約になり、非常に効率的になったと感じています。今後ウィズコロナ、アフターコロナの時代が来ても、リアル会議だけでなく、何回かをWEBによる会議にするのも一つの考

え方ではないかと思っています。

また、マルタの強みでもある営業担当者への産地訪問。今現在は東京の感染状況や受け入れ産地側のコロナ懸念により、なかなか訪問しづらい面もあるかと思えます。こんな時にZOOM等の機能を使い可能な産地との情報交換に利用するなど、コロナ禍以前では発想に至らなかった方法もどんどんチャレンジしていきたいと思います。

幸いにも私どもの携わっている農業、生鮮食料品の分野は一部を除き、今回の感染症に対してはダメージが最小限にとどまっていると考えています。むしろ巣ごもり需要と呼ばれる消費行動の変化、家庭内での食事シーンの増加は、より健康を意識するなど、食に対する人々の意識変革をもたらしはじめ、マルタにも多

くの受注をいただき単月最高売上を達成するなど、思わぬ追い風になった部分もあります。

いずれにしても今後、あらゆる場面において以前と同様な生活規範や、ビジネス態様は維持できなくなると言われています。

マルタでも、例年開催されている8月の九州・四国大会、12月の北海道大会、年明けの冬季全国生産者大会の中止を余儀なくされました。楽しみにしていたいただいていた皆様には大変申し訳なく思いますが、現状を鑑み苦渋の決断となりました。なお冬季大会に代わるものとして、年度末をめどに特別冊子の発行を予定しております。内容は届いてからのお楽しみです。45周年の記念にもあたるためマルタの歴史やエピソード、関係の深い

方々からの寄稿、さらにこのコロナ禍を踏まえ、激動の2020年をどう過ごしたかを考えていたかを記録するといった内容で考えております。全国大会の冊子版という初めての試みではありますが、皆様に元気の出るメッセージを伝えられればと思います。

* * * * *

大事なことは、コロナがもたらした大きな環境変化を組織の進化へのチャンスととらえる視点だと思えます。ただ不満を吐き出すのではなく、大変な苦労や煩わしさはありながらも、コロナ禍のおかげで気付かされた変化を進化の機会、あるいは更なる成長の機会と肯定的にとらえ、いかに前向きに向き合っていくかという決意を、各人が腹を据えて考えていく時代が来たのだと思います。

また、コロナ禍と並び2020年も私たち農家にとっては、天候不順に翻弄された1年でもありました。

私の農場(ナチュラルファーム)でも、7月と9月の長雨により圃場に水が溜まり作物に被害が発生し、収穫が困難な状況になった圃場が何カ所か発生しました。この事を機に、専用機を使い圃場にわずかな傾斜を作り、表層排水がスムーズに行われるよう改良工事を行うなど、出来るだけの対策を練ろうと従業員と共に頑張っています。

「百姓の来年」という言葉がありますが、先々への期待を作っていくことも先に立つ者の役割かな、と思うこの頃です。最後になりますが、2021年が平穏で皆様にとって実り多き年になりますよう、心よりご祈念申し上げます。

新年の抱負【取締役・執行役員】

○原点回帰と存在価値を見つめ直す年に

代表取締役会長 佐伯昌彦

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中で新年を迎えましたが、ダイヤモンド・プリンセス号の乗客の発症からほぼ一年が経過しました。暮らし方や経済の在り方に大きな変化をもたらしてきましたが、沢山の気付きも与えてきています。「不要・不急」という言葉に代表されるあらゆる活動の必要性の見直しは今までの社会的価値観や企業活動そしてライフスタイルにまで及んできています。新型コロナウイルスは多くの人に病や死が身近なものであることを認識させ、貴方にとって大切なものは何か、社会・人類にとって大切なものは何かを問い直す

時間を与えてくれているような気がします。医療の重要性が今ほど痛感することになったように日常の中で当たり前になっていた食の在り方も問い直される時を迎えていると思います。

マルタも創立45周年を迎え、あらためてその存在価値を見つめ直し、「不要」の分野に追いやられることがないようにと気を引き締め直しています。そのためにはマルタ創立の原点に戻り、これからの時代にとってのマルタの存在価値とは何かを真摯に問い直す作業を繰り返していかなければならないと思っています。

自らの農園にあっても土づくりの醍醐味と作物が健全に育ち、人々の健康に貢献できる喜びと感動を享受出来るよう全員で精進して参ります。

* * * * *

○心のつながり「密」を取り戻す一年に

代表取締役社長 鶴田諭一郎

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年も変わらずよろしくお願いいたします。

コロナ禍が全国に拡大しておりますが、皆様の地域ではお変わりないでしょうか。マルタ事業本部の役職員はおかげさまで皆元気に仕事しておりますが、出張・外出が制限される中、多くの皆様にご無沙汰をしており、大変申し訳ありません。

2020年は本当に大変な年でした。ウイルス一つでこんなに大きく社会を変えるほどのことなのか？とさえ思います。多くの産業構造が変化を強いられました。のは事実です。その中でも農産物業界は比較的恵まれた方ではなかったかと思いますが、逆に大きな変化のチャンスを活

かせなかつたとも言えます。当社の事業で言えば産地にお伺いして会話をしながら「種を蒔く」仕込み作業がでしなかつた反動が今後どうなるのか、産地の皆様と十分なコミュニケーションが取れなかつたことが大いに不安でもあります。

2021年を迎えるにあたって、今年、改めて人間関係、コミュニケーションに力を入れなければならないと思います。お客様も産地の皆様も、出口が明確に見えない中で、皆さんが不安や不便・不満の様々な「不」をお持ちだと思います。これらを丁寧に解消し、丁寧に寄り添っていく、そんな一年にしたいと考えます。どうか皆さん今こそ「密」な心のつながりを。昨年のご無沙汰、ご無礼を心からお詫びしつつ、本年が皆さんにとってより良い年になりますよう祈念申し上げます。

○ 昨年の振り返りと反省 新年の挨拶

(熊本) 有限会社鶴田有機農園

鶴田志郎

昨年は新型コロナウイルスに大暴れされ、大変窮屈な一年でした。

春5月は「旭日単光章」をいただきました。評価の主な対象は長年有機農業の推進に努力してきた事のように、有機農業関係では初とのことでした。しかし、コロナウイルスの関係で表彰式や祝賀会は一切中止となり、皆様にはお礼を言う間もありませんでした。

7月には熊本は大水害に見舞われ、生まれて初めて身の危険を感じました。その際、取引先の皆様からお見舞いをいただきました。誠にありがとうございます。

ここ数年の自然のいたずらによる農園の連続赤字は止まらず、さらに私自身も

8月初めから9月末まで2か月の間に三度転びました。三度目の時は初めて救急車に乗せてもらいました。初期のパーキンソン病の疑いがあり、現在、通院療養中。この年齢になると色々出てきます。

今年の4月末には必ず80歳になります。何とか病気に勝って軽い農作業までは再開し、連敗をストップさせ、目標である連勝を確実にしたいものです。

以上、報告と決意と新年の挨拶に代えさせていただきます。

* * * * *

○ コロナ禍と共に新年

(北海道) 有限会社丸富青果 佐久間孝

あけましておめでとうございます。

私の居住する、この北海道北見地区では12月現在雪は全く降っておらず、生活が大変楽な環境で過ごしております。

直近の北海道の農業は地域に差はありますが、生産戸数が少なくなっていることから栽培品目ごとに、作業の一部を外部委託できる作物を取り入れる傾向が強くなっており、政府管掌作物がメインの中で、その他に人参・馬鈴薯・豆類・葉物野菜を中心に収穫をJA・取り扱い団体に委託して行う農業体系が珍しくなくなりました。今後も受託を行う経営体（組織）が農業を持続する必要不可欠な存在となるでしょう。その中で環境負荷、圃場に及ぼす負荷を軽減できるように農業生産者と一緒に歩んでいかなければなりません。コロナ禍における北海道への影響は、土物を中心とした玉葱・馬鈴薯が代表的ですが、直接的な影響があったと関連付ける品目は少ないものと考えます。消費構造が変化した影響は大きいもの

ですが、夏の長雨などの天候不順により生鮮野菜は高騰。馬鈴薯は異常価格となり北海道待ちの状態になり、玉葱は豊作状況により長く低迷が続きます。

国内の流通農産物は輸入との絡みの中で生産整合性を見極めて栽培流通されており、食料として再生産できないものは低価値とし流通が減るものです。

今回のコロナ禍は気象的な影響はなく、寧ろ農業界に他業種からの労働力が入り込むなど現場サイドでは栽培に追い風となっている経営体も少なくないと思定ができます。

農産物は国民生活上、不可欠な物品であります。これからの物流改革を含めて消費構造の変化をチャンスに結びつけることでの確な対応ができるようにトレンドを掴み取り、活かしてほしいものです。

今後のご期待を申し上げて御挨拶にします。

* * * * *

○若手を前面に出す2021年

（長野）有限会社小松園芸 小松真知子

新年を迎え、今後は農業界のイメージをよりよくするために若手社員を会社の前面に出していきたいと考えた。

昨年、母校の大学で、1時間だけ講義をする機会があった。ただ生産現場の話をするだけなのだが、もちろんWEBで。そしてレポートの宿題をだすようにと大学側から指示が出ていたので、「農業を仕事にしたい人を増やすにはどんな農業が展開されている必要があるか、そのイメージ・条件を探る」としてみた。送ってくれたレポートを見て、IT化で素人でも玄人並みの技術管理システム、機械化で重

労働からの解放、六次化で収入アップなどは想定内の意見と感じた。閉鎖的な農村環境になじむのはたいへんなので、新規就農者は新規就農者村を形成してはどうかとも提案されていた。

しかし、一番印象に残ったのは、「若い人がやっているという事が大事だ」という意見だ。所得だとか、重労働だとかの問題ではない。ただ、農業生産の現場に若い人がいればそれだけで価値があることなのか。そうかもしれない。できることは若い人が農業をやっているんだという事のことあることにアピールしていくことだと思う。

2021年は覇気をもって実行したい。

* * * * *

○新年の抱負

(愛媛) 愛西グループ 菊池正晴

令和2年も多種多様な災害が各地で発生した年になりました。もう過去の経験をもととした気候変動への対応では、農業経営をするには難しくなり、今までの栽培方法の再検討が必要ではないでしょうか。私は柑橘栽培を40年ほどしてきましたが、年を追うほど害虫、病気の異常発生が目立つようになりました。これに対応し生産の方法も考え直さなければいけなくなっているのではないのでしょうか。

これ以上農薬や化学肥料を使用するようでは環境負荷が大きくて農産物の再生産が困難になるのではないのでしょうか。今後は循環型の生産方法により植物自体の力を発揮させる「土壌微生物」を活かした生産方法に変えなければ、気候変動に対応出来なくなる様な気がします。私の地域でもスプリンクラーによる広域防除

が行われていますが、近年では病気、害虫の異常発生が頻発しています。このことは自然を力では抑えきれなくなっている。と最近特に思えるようになりました。私の有機栽培の方が病気も害虫の被害も少ないように思えます。やはり土づくりに生産の基礎があるのではないのでしょうか。マルタの基本理念でもある有機栽培が今後益々大事になることを確信しています。これからも自然と向き合いより合理的な生産に努力したいと思います。

* * * * *

○新年の抱負

(群馬 本社) 株式会社野菜くらぶ

澤浦彰治

新年明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍で一年が始まり、一年が終わりました。その影響で顧客の状況にも大きな変化がありました。また、生産面

では7月の長雨と8月の猛暑、11月から
の豊作による野菜価格の暴落など、変化
は常であることを改めて実感する一年で
した。

江戸時代以降おおよそ80年おきに日本
の農業は大変革をしました。明治維新の
外貨獲得の為の養蚕業の振興、その78年
後の大東亜戦争終了時の農地解放と1^{ドル}
360円の固定相場でそれまでと全く違
う農業に変わりました。

私は戦後76年目の今年を含むこの数年
間は歴史的に見ても農業は大きな変化の
中にあると認識しています。「コロナ禍+
極端な天候+歴史的転換点」を受け身で
はなく、自ら未来を作っていくとする
農業者にとっては大きな機会になる時代
です。

2021年は様々な問題を抱えてのス

タートとなりますが、それらは私達に大
きな成長の機会を与えてくれると思
い、その課題解決に農業を通じて取り組
んでいく一年にしたいと考えています。

農業者だけで無く流通・メーカー・お店
が協力して、お客様に対して課題の解決・
提案を行い、より良い世の中になるよう
農業をして行きたいと思しますので、皆
さんのご協力をお願いします。

* * * * *

○謹んで新春をお祝い申し上げます。

(長崎) 株式会社西九州マルタ 廣瀬克

昨年は新型コロナウイルスに大きく影
響された年だったと思います。目に見え
ないウイルスへの対策としてマルタ職員
の三密を避けるためのテレワーク、そし
て出張外出制限と会社一丸となって取り
組んでこられ、その結果現在まで誰一人

として感染することなく新年を迎えられ
たことうれしく思います。しかし、コロナ
対策の弊害で職員さんとのコミュニケー
ションが取れず、ちよつとしたことで歯
車が噛み合わないなど困ったことも多々
あったかと思えます。

新年度は昨年の反省点を改善し、お互
いが今まで以上に連絡を取り合いながら
状況を把握しあえるように出来たら良い
のではないかなと思います。

私事ですが、20年近く務めさせていた
だいた西九州マルタの代表を昨年の10月
に退任し、若い世代と交代いたしました。
まだ還暦を過ぎたばかりですので、これ
からは一生産者として今一度いろんな技
術を習得し初心に返って頑張っていけた
らなと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

○新年の抱負

(山梨) 久津間グループ 久津間紀道

明けましておめでとうございます。

私の場合、年の始まりは、例年箱根駅伝の観戦からでした。毎年1月2日大手町から箱根湯本まで電車を乗り継ぎ中継所へ、翌3日は大手町に陣取り観戦。しかし、今年は観戦自粛のおふれが出たためテレビでの観戦となりました。

去年は、全世界がコロナに翻弄され大変な思いをしました。そんな中、夏果実は巣窠り需要、シャインマスカット効果で市況は高値で推移しました。高値の要因は、桃は昨年からの穿孔細菌病、葡萄は夏の長雨による晩腐病でした。

私達のグループでは適切な管理と適期防除により、例年通りの成果をあげる事ができました。改めて土づくり、樹づくり

の重要性を感じられる年でした。

3年ほど前から新たな取り組みとして、桃の育種を20人ではじめました。試行錯誤しながら既存の品種の掛け合わせをつくり、今年ようやく初なりを迎え、時期・糖度・着色・肉質を検討しました。育種は、何千分の一の確率で簡単にはできないとは聞いていましたが、こんなにも難しく思い通りにならないものかをつくづく感じました。

諦めず毎年こつこつとシャインのようになる事を夢見てチャレンジしていきたいと思います。

* * * * *

○新年の抱負

(石川) 株式会社金沢大地 井村辰二郎

新年あけましておめでとうございます。去年は、誰も予想できなかった禍があり、

健康を害された皆様、影響を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

新しい年を迎え、ワクチンの普及や東京オリンピック再挑戦によるコロナ禍克服の未来。前をしっかりと向いて、様々なことに取り組んで行こうと決意しております。人々の価値観や、社会の仕組みが大きく変わろうとしている今、私たち農業関係者も、消費者や社会の行動変容を敏感に捉え、更なる成長を遂げなければなりません。

私事ですが、現在、日本農業法人協会副会長政策提言委員長を務めさせていただき、内閣府規制改革推進会議専門委員、農林水産省食料・農業・農村政策審議会企画部会地球環境小委員会専門委員、同じく生物多様性戦略検討会委員を務めております。

昨年10月末、農林水産省と環境省が「農林水産省×環境省」の連携強化の合意を発表。農林水産省「みどりの食料システム戦略」（仮称）検討チームの設置。政府が2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言。アメリカ大統領にバイデン氏が当選。金融機関のESG投資。SDGs等の浸透により経済にも環境にも配慮した農業、流通消費までの持続可能なバリューチェーンモデルが求められます。

マルタの活動は、土づくりから、食卓までフォローできる、先進的な社会経済活動だと考えられます。地域農業を支える農家の皆様、その価値を食卓に届けるマルタ社員の皆様、今後ますますの発展を確信しております。

最後に、禍を克服して、また皆様とオフ

ラインで歓談できる日を楽しみにしております。

* * * * *

○新年の抱負

（長野）有限会社八ヶ岳

ナチュラファーム 関拓二

昨年よりマルタの役員に選出された八ヶ岳ナチュラファームの関です。

私は千曲川の源流がある長野県川上村（標高1200m以上の日本一のレタス産地・農地耕作放棄地0に近い）で、農協を脱会し、平成11年より仲間6名と会社を設立し、マルタ、他を通し野菜の契約販売（4月下旬～11月上旬特別栽培以上）を行っています。私は農地・有利販売・消費者の事を考え、約12品目の野菜を有機栽培にて行っています。私の人生目標は人類・宇宙・自然から求められる農業経営者になり、社会に貢献することです。

マルタの役員としてこの考え方を経営に活かせるよう提言し、マルタが農業者・消費者・国から必要とされる会社となつて社会貢献し、ますます成長・発展するよう努めていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

* * * * *

○高める2021年！

（北海道）株式会社矢野農園 矢野徳幸

新年あけましておめでとうございます。2020年はコロナの年でしたね。そして今現在もその猛威は衰えず、医療機関の疲弊は深刻です。農業も食を司る重要な産業ですが、医療の重要性を改めて痛感しているところです。

農業関連では巣ごもり需要により売り上げを伸ばした農家さんもいれば、加工や観光農園を営まれている農家さんは苦

しんだ1年となつてしまつたのではない
でしょうか。1年を振り返り何が良かつ
たのか、何が悪かつたのかしつかりと分
析し、改善のための計画を立て実行する
ことが重要です。この基本的なサイクル
を面倒臭がらずに実行することが確実な
成長への一歩へとつながると思います。

私の農園では北海道を代表するじゃが
いも・玉ねぎ・南瓜の生産を軸に、最近で
はブロッコリーの生産も増加傾向です。
また有利販売を実践するためにグローバ
ルGAP認証の取得や特別栽培での生産
をしております。お客様に手に取って
もらいたく、お店の棚に並べてもらうため
に自分は何ができるのか、何が最善かを
日々模索しております。

40歳を迎え少しの自信と若いふりをし
て2021年も駆け抜けていきます！

○新年の抱負

(熊本) 有限会社肥後あゆみの会

澤村輝彦

令和2年、「これまでにない経験」とい
うことをたびたび耳にする年であつた。
コロナ、自然災害含め人と経済の安定が
いかに難しいことか知ることになつた。

海外、国内の移動が制限され、いろいろ
な問題・課題が山積みだが、私たち農業者
は、自然環境や人の健康に大きく携わつ
ている仕事だと痛感している。

有機農業が一般的農業になるころには、
人も心も自然も再生できるのではないだ
ろうか。

* * * * *

○あえて誓う、自己変革の大切さ。

(静岡) 株式会社東海マルタ 本橋克晴

東海マルタの本橋です。産地の皆様
に日頃よりモグラ堆肥のご活用誠にあり

がとうございます。今後とも宜しくお願
い致します。

この抱負を書いている今現在、世界中
でコロナウイルスが蔓延し、いまだに終
息する気配すらない状況下にあります。
くれぐれもご自愛ください。

今年6月に63歳になる人間が今更なが
らに誓う抱負は、「まず行動する。結果は
後から付いてくる。現状を冷静に受け止
めてどうしたらより良い方向に進むか一
生懸命に努力する。」です。

「できなかつたらどうしよう、失敗し
たらどうしよう。」とかく自分は尻込み型
の性格で今迄の人生を送ってきた気がし
ます。生来の性格は変えられないと言わ
れており、自分自身もそう思いますが、自
分を取り巻く環境に大きな変化が生じた
ときはそれに立ち向かう勇気と覚悟が必

要になります。「失敗は誰でもする、大事なのは同じ失敗を繰り返さない事、なぜ出来なかったのかを反省・分析し努力する。」この作業が大切だと感じます。

会社を経営する人間がこの年になって皆様に披露する抱負としては些か気恥ずかしさを感じましたが、敢えて書き記しました。今年一年肝に銘じて仕事に取り込む所存でございます。

* * * * *

○新年の抱負

(和歌山) 紀ノ川農業協同組合

松本和広

何から何まで新しい対応に追われた2020年であった。そう、新型コロナウイルスの広がりが、私たちの仕事や生活の在り方で大きく変えてしまった。

今回のパンデミックのそもそもの原因が、グローバル리즘による、自然と環境に

対する人間の危うい接し方、森林破壊、それに馴らされた私たちの軽率な消費行動にもあることを忘れてはならない。コロナ対策のワクチンが開発・普及されても、根本の仕組みを変えなければ、また次の感染症を惹起させてしまう。

ヨーロッパでは、グリーンリカバリーの動きが急だ。「単なる復興ではなく、コロナ禍という災害からの脱出と、新たな社会の創造、すなわち新次元の政治・経済社会の構築の二つを同時並行的に追求していくべき」(内橋克人著『コロナ後の世界を生きる』岩波新書)とされ、社会全体を新しく生まれ変わらせる努力が始まっている。

元に戻りたいと願う、コロナ以前の社会が、本当に取り戻す価値のあるものだったのかの総括も必要だ。「すべてが終わ

った時、本当に僕たちは以前とまったく同じ世界を再現したいのだろうか」(パブロジールダーノ著『コロナの時代の僕ら』この問いに応えていく一年としたい。

* * * * *

○新年明けましておめでとうでございます。

品質管理部部長執行役員 藤田兼

旧年は過去誰も経験したことのない年となりましたが、そんなコロナ禍においても生産管理業務へご協力をいただき誠にありがとうございました。当然ですが弊社の出張は極端に減り、品質管理部でも現地確認にはほとんど行くことができませんでした。例年30件前後実施されているお取引先様による農場二者監査も6件に留まりました。ご対応いただいた産地様には感謝申し上げます。

2年目の弊社グローバルGAPの審査

についても日程が危ぶまれましたが、どうか実施でき認証を維持しております。グローバルGAPにつきましては一昨年より認証品としての販売が一部で開始され商品数も徐々に増えてきました。国内での実際の販売では長らく非認証品としての取り扱いであったことを考えると大変嬉しく思います。生協様関係でもGAP関連の情報発信が確実に増えています。今後、更なる需要増となり、今までとこれからの日々の農場管理の実践が生産者様の経営にとってプラスに働くことを期待して止みません。

引き続き外部の関係者様とも連携し、産地様への有益な情報収集に努めてまいります。と思えます。本年も何卒宜しくお願いいたします。

* * * * *

〇2021年を迎えて

営業企画部長執行役員 赤尾和之

新年あけましておめでとうございます。2020年は、あれよあれよという間に日本はもとより世界に拡大した新型コロナウイルス(以下COVID-19)に振り回された年ですが、それ以外の問題も多く例年にも増して苦労の絶えない年だったなあ、と思っております。

直近でも11月末からの全体的な野菜の相場安には悩まされておりますが、11月までの売上高はおかげさまで前年を超えており、産地・物流業者皆様の大きなご協力により数字を残すことができていることに感謝申し上げます。まずは2020年度末までこの好調さを維持できるように気を緩めることなく販売・企画に営業企画部一丸となって取り組んでまいります。

また、課題としてやはり圧倒的にコミュニケーションが足りていないことは反省しており、営業企画の担当も産地に訪問できないことでストレスが相当溜まっておりますが、行けるようになるのを待つのではなく、一部産地の皆様にご利用しているようにZOOM等新しい技術を使った顔を見合わせての情報交換を積極的に行っていきますのでご協力願います。

COVID-19は今後しばらく我々の生活に一定の影響を残すものと構えて、営業を続けていくわけですが、どういった販売チャネルが伸びていくのか不透明さは一層です。ですが、安定してよりよい農産物生産に取り組んでいる皆様とともに、この難局を乗り切っていきたいと思っておりますので、今年も1年どうかよろしくお願いたします。

佐伯昌彦会長 緑白綬有功章受章



令和2年秋の叙勲で、佐伯昌彦代表取締役会長が、(公財)大日本農会から農事功績表彰「緑白綬有功章(りよくはくじゅゆうこうしゅうしょう)」を受章されました。おめでとございます！

同章は、農業の発展などに大きな功績のあった人へ贈られる章で、会の総裁である秋篠宮皇嗣殿下より授与される名誉ある章でもあります。今年度の表彰式は、新

型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況であることから、開催を見合わせる事になりました。

佐伯会長はマルタの事業と並行し、北海道洞爺湖町で40年近く農業に従事し、主に施設による有機ミニトマトやセルリ―を栽培。化学肥料・化学合成農薬に頼る栽培から脱却し、土づくりを基本とする持続可能な有機農業の普及と、食の安全・安心を消費者に届ける「とうや湖ブランド」の確立に貢献。また、規模拡大と労働生産性を上げることでも継続的な通年雇用を実現し、新規就農者や青年農業者への指導・助言など担い手育成に尽力してきました。以下、佐伯会長からのコメントをご紹介します。

25歳で就農して以来、農業が抱える課題と向き合い、毎年毎年挑戦を繰り返してきた40年だったと思います。化学肥料や化学合成農薬に依存する農業生産に持続性の限界を感じ、有機的農業に挑戦しはじめた25年ほど前に鶴田前会長と出

会い、マルタの存在を知り、冬季全国生産者大会に集う多くの生産者から沢山の気付きや学びを頂けたことが現在の経営の基盤づくりに大いに役立ったと感謝しています。マルタの社長の任を拝命した後も全国に広がる生産者の皆様にお会いし、学びの機会を得られることが何よりの喜びでした。今回このような表彰をお受けすることができたのもマルタの皆様との出会いの賜物とあらためて感謝申し上げます。

「土づくり」は農業を未来に繋ぐうえで欠くことのできない作業の連続であります。ゴールの無い作業とも言えますが日々、年々その成果を楽しめる営みでもあります。その醍醐味を味わいながら今後も皆さんと共に歩んでいきたいと思えます。

今号のモグラ便りに関するお問い合わせ・ご質問は、
担当:岩田まで
〒101-0021 東京都千代田区外神田
6-5-12 倍楽ビル
(新末広)3階